

「鉄道地震工学研究センター 第3回 Annual Meeting」 を開催しました

平成29年2月9日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所(以下、鉄道総研)は、「鉄道地震工学研究センター 第3回 Annual Meeting」を下記により開催いたしましたのでお知らせします。

鉄道総研は、鉄道地震工学研究センターの活動紹介や参加者の皆様と幅広く意見交換をさせて頂く場として、Annual Meeting (アニュアル・ミーティング) を下記の通り開催し、鉄道事業者をはじめ官公庁、大学、一般企業から140名の方々にご参加頂きました。

平成28年4月に発生した熊本地震では、震度7の地震の2回の発生により、震源域での建物の被害が拡大するなど、新たな課題も浮かび上がりました。また、今後、首都直下地震や南海トラフ地震など、大きな地震の発生も危惧されております。このような大地震に備えるためには、時間的にも、技術分野的にも途切れのない地震対策が有効であると考えられます。そこで、第3回となる本年度のアニュアル・ミーティングでは、『シームレスな地震対策で鉄道のレジリエンスを高める ―時間的・分野的に途切れのない対応―』をメインテーマとしました。

招待講演では、「熊本地震における九州新幹線の被災状況と早期復旧に向けた取り組みについて」と題して、九州旅客鉄道株式会社の中島英明様にご講演を頂きました。その後、鉄道地震工学研究センターからは、シームレスな地震対策と地震情報の活用のための戦略及びそれらを可能にする要素技術について紹介しました。また、来場者の皆様に鉄道地震情報公開システムについて実際の操作を体験して頂きました。

パネルディスカッションでは、今後想定される大地震に備えた戦略・取組みについて、国土交通省や鉄道事業者の方々をパネラーに迎えて討議を行いました。ここでは、(1) 現在の設計には見えない安全率が含まれており、それをしっかりと解明することの重要性、(2) これまでの技術者の経験や暗黙知を数値化する必要性、(3) 過去の震災復旧に関する情報をデータ化して技術継承することなど、地震工学に関する研究や情報の活用方法などについて、聴講者の皆さまも交えた活発な討議が行われました。

記

- 開催日時：平成29年1月23日(月) 13時30分から17時30分
- 開催場所：御茶ノ水ソラシティ ソラシティホール West (東京都千代田区神田駿河台)
- プログラム
 - 開催挨拶
鉄道総研 理事長 熊谷 則道
 - 招待講演
「熊本地震における九州新幹線の被災状況と早期復旧に向けた取り組みについて」
九州旅客鉄道株式会社 新幹線部 工務課長 中島 英明 様
 - 鉄道地震工学研究センターの活動報告
「シームレスな地震対策と地震情報の活用」
鉄道総研 鉄道地震工学研究センター長 室野 剛隆

■シームレスな地震対策を実現する要素技術

(1) 事前対応

・構造物の地震対策技術

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター

地震応答制御 主任研究員 豊岡 亮洋

・脱線対策技術

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター

地震応答制御 主任研究員 飯田 浩平

・鉄道地震災害シミュレータ

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター

地震動力学 主任研究員 井澤 淳

(2) 緊急・即時対応

・早期地震警報の新しい取組み

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター

地震解析 副主任研究員 是永 将宏

(3) 初動対応

・鉄道用地震情報公開システム

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター

地震解析研究室長 山本 俊六

■パネルディスカッション

「課題と今後の方向性」

国土交通省鉄道局 技術企画課

課長補佐 水野 寿洋 様

東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター

所長 野澤 伸一郎 様

九州旅客鉄道株式会社 新幹線部

工務課長 中島 英明 様

阪急電鉄株式会社 都市交通事業本部

技術部課長 平田 大 様

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター長

室野 剛隆

モデレーター：

鉄道総研 鉄道地震工学研究センター

地震動力学研究室長 小島 謙一

■閉会挨拶

鉄道総研 理事

芦谷 公稔



講演会の様子



パネルディスカッションの様子

【熊谷理事長挨拶 要旨】

本日は、多くの方々にお集まりいただき、心より感謝申し上げます。

大規模地震の発生は、避けて通れないものです。鉄道総研としては、地震に関する情報の集約および情報の発信を更に深度化してまいりたいと思います。本ミーティングの主催者である鉄道地震工学研究センターを4年前に設置した際、「鉄道地震に関する情報発信の拠点になること」「地震関係の研究の拠点になること」という2つのミッションを設けました。情報発信では、一方向ではなく双方向の発信を目指して

おり、本ミーティングは、まさにその情報交換の場となると思います。研究では、東日本大震災のような海溝型の地震が発生した際に、いち早く列車に情報を発信する研究を進めています。現在、海底の地震計などの情報を組み入れた列車の早期地震検知システムの開発に、鉄道総研のみならず、JR各社、海洋研究開発機構、防災科学技術研究所などの機関が一体となって、実用化を目指して取り組んでおります。ぜひ、御協力のほどよろしくお願い申し上げます。本日は、様々な分野から情報を発信して頂けることになっております。ぜひ有意義に活用して頂ければと思います。



開会挨拶を行う 鉄道総研理事長 熊谷則道